

は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、及び0.15%粉剤DLを計3回散布（4kg/10a）したところ、散布後13<sup>註2</sup>～28日の最大残留量は0.12, 0.142 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、及び0.5%粒剤を計3回散布（4kg/10a）したところ、散布後14～22日の最大残留量は0.72, 0.26 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、16.0%水溶剤の200倍希釈液を0.5L/箱及び2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、並びに0.5%粉剤DLを計3回散布（4kg/10a）したところ、散布後14～28日の最大残留量は0.28, 2.75 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、16.0%水溶剤の200倍希釈液を0.5L/箱及び2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、並びに16.0%水溶剤の4,000倍希釈液を計3回散布（150L/10a）したところ、散布後14～28日の最大残留量は0.18, 0.78 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、16.0%水溶剤の200倍希釈液を0.5L/箱及び2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、並びに0.5%粒剤を計3回散布（4kg/10a）したところ、散布後14～28日の最大残留量は0.17, 2.16 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、16.0%水溶剤の200倍希釈液を0.5L/箱及び2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、並びに20.0%フロアブルの5,000倍希釈液を計3回散布（150L/10a）したところ、散布後14～28日の最大残留量は0.12, 1.02 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（3例）において、16.0%水溶剤の200倍希釈液を0.5L/箱及び2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、並びに20.0%フロアブルの24倍希釈液を計3又は4回RCH散布（0.8L/10a）したところ、散布後14～28日の最大残留量は0.81, 2.57, 2.28 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、16.0%水溶剤の200倍希釈液を0.5L/箱及び2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、並びに16.0%水溶液の1,000倍希釈液を3回散布（25L/10a）したところ、散布後7～28日の最大残留量は1.47, 0.79 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、2.5%箱粒剤を50g/箱及び20%フロアブル剤の1250倍希釈液を計4回散布（25L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.40, 3.51 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

## ②だいでず

だいでず（乾燥子実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を6kg/10a（播種時播溝処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（150, 200L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.01, <0.01 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

だいでず（乾燥子実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を6kg/10a（播種時播溝処理土壌混和）、及び0.5%H粉剤DLを計4回又は3回散布（4kg/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は<0.01, <0.01<sup>注4)</sup> ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

だいでず（乾燥子実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を6kg/10a（播種時播溝処理土壌混和）、及び20.0%フロアブルの2,500倍希釈液を計3回散布（200, 250L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は<0.01, <0.01 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

だいでず（乾燥子実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を6kg/10a（播種時播溝処理土壌混和）、及び20.0%フロアブルの20～24倍希釈液を計4回散布（0.8L/10a）したところ、散布後7～28日の最大残留量は<0.01, <0.01 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

## ③ばれいしよ

ばれいしよ（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を6kg/10a（播種前播種溝処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（150L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.002, 0.016 ppmであった。

ばれいしよ（塊茎）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を6kg/10a（植付時植溝処理土壌混和）、及び20.0%フロアブルの2,500倍希釈液を計3回散

布 (200, 250L/10a) したところ、散布後 7~21 日の最大残留量は <0.01, 0.01 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

ばれいしょ (塊茎) を用いた作物残留試験 (2 例) において、0.5% 粒剤を 6kg/10 a (植付時植溝処理土壌混和)、及び 16.0% 水溶剤の 1,000 倍希釈液を計 3 回散布 (25L/10a) したところ、散布後 7~21 日の最大残留量は 0.03, <0.01 ppm であった。

#### ④かんしょ

かんしょ (塊根) を用いた作物残留試験 (2 例) において、0.5% 粒剤を 9kg/10a、定植時作条処理土壌混和として 1 回用いたところ、散布後 104~116 日の最大残留量は <0.01, <0.01 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

#### ⑤てんさい

てんさい (根部) を用いた作物残留試験 (2 例) において、16.0% 水溶剤の 100 倍希釈液を計 1 回定植時苗床灌注 (1L/冊) したところ、散布後 160~175 日の最大残留量は <0.01, <0.01 ppm であった。

てんさい (根部) を用いた作物残留試験 (2 例) において、20.0% フロアブルの原液を 1 回種子コーティング (489mL/100,000 ペレット種子)、16.0% 水溶剤の 100 倍希釈液を 1 回定植前苗床灌注 (1L/冊) 及び 2000 倍希釈液を 3 回散布 (200, 500L/10a) したところ、散布後 14~30 日の最大残留量は <0.01, 0.02 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

#### ⑥だいこん

だいこん (根部) を用いた作物残留試験 (2 例) において、0.5% 粒剤を 6 kg/10 a (播種前播種溝処理土壌混和)、及び 16.0% 水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 2 回散布 (150, 200L/10a) したところ、散布後 7~14 日の最大残留量は 0.016, 0.014 ppm であった。

だいこん (葉部) を用いた作物残留試験 (2 例) において、0.5% 粒剤を 6kg/10 a (播種前播種溝処理土壌混和)、及び 16.0% 水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 2 回散布 (150, 200L/10a) したところ、散布後 7~14 日の最大残留量は 0.84, 2.26 ppm であった。

だいこん (つまみ菜) を用いた作物残留試験 (1 例) において、0.5% 粒剤を 6 kg/10a (播種前播種溝処理土壌混和) したところ、散布後 10 日の最大残留量は 0.48 ppm であった。

だいこん(間引き菜)を用いた作物残留試験(1例)において、0.5%粒剤を6kg/10a(播種前播種溝処理土壌混和)したところ、散布後22日の最大残留量は0.14ppmであった。

#### ⑦キャベツ

キャベツ(葉球)を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を2g/株(定植時植穴処理土壌混和)、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計2回散布(200,300L/10a)したところ、散布後3~14日の最大残留量は0.18,0.16ppmであった。

#### ⑧レタス

レタス(茎葉)を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を2g/株(定植時植穴処理土壌混和)、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計2回散布(200,300L/10a)したところ、散布後3~14日の最大残留量は0.58,1.33ppmであった。ただし、この試験は適用範囲内で行われていない。

#### ⑨ねぎ

ねぎ(茎葉)を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を6kg/10a、定植時植溝処理土壌混和として1回、株元散布として4回散布したところ、散布後3~14日の最大残留量は0.05,0.14ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

ねぎ(茎葉)を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を1回播種前播種溝処理土壌混和(6kg/10a)、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を4回散布(200,150L/10a)したところ、散布後3~14日の最大残留量は0.09,0.13ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

#### ⑩トマト

トマト(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を2g/株(定植時植穴処理土壌混和)、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(250L/10a)したところ、散布後1~7日の最大残留量は0.226,0.120ppmであった。

#### ⑪ピーマン

ピーマン(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を2g/株(定植時植穴処理土壌混和)、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計2回散布(200,150~200L/10a)したところ、散布後1~7日の最大残留量は1.21,1.02ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

#### ⑫なす

なす(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を2g/株(定植時植穴処理土壌混和)、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(162.5

～200, 200L/10a) したところ、散布後 1～7 日の最大残留量は 0.290, 0.379 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

⑬きゅうり

きゅうり (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、0.5% 粒剤を 2g/株 (定植時植穴処理土壌混和)、及び 16.0% 水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布 (300, 200L/10a) したところ、散布後 1～7 日の最大残留量は 0.695, 0.224 ppm であった。

⑭メロン

メロン (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、0.5% 粒剤を 2g/株 (定植時植穴処理土壌混和)、及び 16.0% 水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布 (250, 300L/10a) したところ、散布後 1～7 日の最大残留量は 0.038, 0.012 ppm であった。

⑮すいか

すいか (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、0.5% 粒剤を 2 g/株 (定植時植穴処理土壌混和)、及び 16.0% 水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布 (250, 300L/10a) したところ、散布後 1～7 日の最大残留量は 0.022, 0.011 ppm であった。

⑯温州みかん

温州みかん (果肉) を用いた作物残留試験 (2 例) において、16.0% 水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布 (400L/10a) したところ、散布後 7～21 日の最大残留量は 0.246, 0.086 ppm であった。

温州みかん (果皮) を用いた作物残留試験 (2 例) において、16.0% 水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布 (400L/10a) したところ、散布後 7～21 日の最大残留量は 3.24, 1.09 ppm であった。

温州みかん (果肉) を用いた作物残留試験 (2 例) において、16.0% 水溶剤の 20 倍希釈液を 1 回樹幹散布 (22.2, 13.3L/10a) 及び 2000 倍希釈液を計 3 回散布 (666, 800L/10a) したところ、散布後 7～21 日の最大残留量は 0.02, 0.08 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

温州みかん (果皮) を用いた作物残留試験 (2 例) において、16.0% 水溶剤の 20 倍希釈液を 1 回樹幹散布 (22.2, 13.3L/10a) 及び 2000 倍希釈液を計 3 回散布 (666, 800L/10a) したところ、散布後 7～21 日の最大残留量は 0.74, 2.96 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

⑰なつみかん

なつみかん（果肉）を用いた作物残留試験（2例）において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（500L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.023, 0.292 ppmであった。

なつみかん（果皮）を用いた作物残留試験（2例）において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（500L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.362, 2.18 ppmであった。

なつみかん（果実）<sup>註5)</sup>を用いた作物残留試験（2例）において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（500L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.118, 0.726 ppmであった。

⑱すだち

すだち（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（500L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.297 ppmであった。

⑲かぼす

かぼす（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（500L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.204 ppmであった。

⑳りんご

りんご（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（500L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.155, 0.042 ppmであった。

りんご（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（350, 400L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.15, 0.06 ppmであった。

㉑なし

なし（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（300, 500L/10a）したところ、散布後1～14日の最大残留量は0.39, 0.18ppmであった。

㉒もも

もも（果肉）を用いた作物残留試験（2例）において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（400L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.124,

0.084 ppm であった。

もも（果皮）を用いた作物残留試験（2例）において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（400L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は1.00, 2.04 ppm であった。

㊸うめ

うめ（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（700, 500～800L/10a）したところ、散布後7～28日の最大残留量は0.97, 1.12 ppm であった。なお、500～800L/10a 散布された1例については、適用範囲内で試験が行われていない。

㊹おうとう

おうとう（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計2回散布（625, 500L/10a）したところ、散布後1～14日の最大残留量は1.08, 1.96 ppm であった。

㊺ぶどう

ぶどう（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（300L/10a）したところ、散布後14～56日の最大残留量は0.506（大粒種）、1.43（小粒種） ppm であった。

ぶどう（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（300L/10a, 400L/10a）したところ、散布後1～56日の最大残留量は0.66, 1.00 ppm であった。

㊻かき

かき（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（400, 500L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.11, 0.14 ppm であった。

㊼茶

茶（荒茶）を用いた作物残留試験（3例）において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計1回散布（400L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は37.6, 2.42, 9.92 ppm であった。

茶（浸出液）を用いた作物残留試験（3例）において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計1回散布（400L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は36.4, 2.27, 8.70 ppm であった。

㉘いちご

いちご（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を2g/株、定植時植穴処理土壌混和として1回用いたところ、混和後62～104日の最大残留量は0.22, 0.06 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

㉙あんず

あんず（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（556, 500L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は0.72, 1.06 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

㉚れんこん

れんこん（根）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を12kg/10a定植時植溝処理土壌混和として1回、散布として計3回用いたところ、散布後7～21日の最大残留量は<0.01, <0.01 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

れんこん（根茎）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を12kg/10a定植時植溝処理として1回、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（300, 200L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は<0.01, <0.01 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

㉛いんげんまめ

いんげんまめ（乾燥子実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を6kg/10a（播種時播溝処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（150, 244L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.01, 0.02 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

㉜あずき

あずき（乾燥子実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を6kg/10a（播種時播溝処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（300, 150L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.09, 0.03 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

㉝ブロッコリー

ブロッコリー（花蕾）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を2g/株（定植時植穴処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（200L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は0.33, 0.07 ppmであった。



㉔ アスパラガス

アスパラガス(若茎)を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(300 L/10a)したところ、散布後1~7日の最大残留量は0.10, 0.24 ppmであった。

㉕ リーフレタス

リーフレタス(莖葉)を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を2g/株(定植時植穴処理土壌混和)、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計2回散布(200~230, 238 L/10a)したところ、散布後3~14日の最大残留量は7.96, 6.67 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

㉖ サラダ菜

サラダ菜(莖葉)を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を2g/株(定植時植穴処理土壌混和)、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計2回散布(150~200, 195L/10a)したところ、散布後3~14日の最大残留量は9.99, 4.41 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

㉗ えだまめ

えだまめ(さや)を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を6kg/10a(定植時植溝処理土壌混和)、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(200, 300L/10a)したところ、散布後3~14日の最大残留量は0.69, 0.26 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

㉘ なら

なら(莖葉)を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(200L/10a)したところ、散布後3~14日の最大残留量は6.18, 1.42 ppmであった。

㉙ ネクタリン

ネクタリン(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(400, 500L/10a)したところ、散布後3~14日の最大残留量は0.64, 0.58 ppmであった。

㉚ すもも

すもも(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(500, 400L/10a)したところ、散布後3~14日の最大残留量は0.10, 0.04 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

#### ④ ミニトマト

ミニトマト(果実)を用いた作物残留試験(1例)において、0.5%粒剤を2g/株(定植時植溝処理土壌混和)、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(300~400L/10a)したところ、散布後1~14日の最大残留量は0.66 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

ミニトマト(果実)を用いた作物残留試験(1例)において、0.5%粒剤を2g/株(定植時植溝処理土壌混和)、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(300L/10a)したところ、散布後1~14日の最大残留量は0.90 ppmであった。

#### ④ にがうり

にがうり(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を2g/株(定植時植溝処理土壌混和)、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(250, 180L/10a)したところ、散布後1~7日の最大残留量は0.28, 0.16 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

#### ④ チンゲンサイ

チンゲンサイ(茎葉)を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を2g/株(定植時植溝処理土壌混和)、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(200, 300L/10a)したところ、散布後14日の最大残留量は0.16, 0.85 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

#### ④ みずな

みずな(茎葉)を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を6kg/10a(播種時播溝処理土壌混和)、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(40~150, 227.8L/10a)したところ、散布後7~14日の最大残留量は1.07, 2.46 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

#### ④ おくら

おくら(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を6kg/10a(播種時播溝処理土壌混和)、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(200, 100~150L/10a)したところ、散布後1~7日の最大残留量は0.36, 0.30 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

#### ④ マンゴー

マンゴー(果実)を用いた作物残留試験(1例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(320L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は0.06 ppmであった。

マンゴー(果実)を用いた作物残留試験(1例)において、16.0%水溶剤の2,000

倍希釈液を計 3 回散布 (320L/10a) したところ、散布後 7~21 日の最大残留量は 0.06 ppm であった。

④いちじく

いちじく (果実) を用いた作物残留試験 (1 例) において、16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布 (400L/10a) したところ、散布後 3~14 日の最大残留量は 0.27 ppm であった。

いちじく (果実) を用いた作物残留試験 (1 例) において、16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布 (200L/10a) したところ、散布後 3~14 日の最大残留量は 0.07 ppm であった。

⑦あさつき

あさつき (茎葉) を用いた作物残留試験 (2 例) において、0.5%粒剤を 6kg/10a、定植時植溝処理土壌混和として 1 回、株元散布として 4 回散布したところ、散布後 3~14 日の最大残留量は 0.59, 0.96 ppm であった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

⑧わけぎ

わけぎ (茎葉) を用いた作物残留試験 (2 例) において、0.5%粒剤を 6kg/10a、定植時植溝処理土壌混和として 1 回、株元散布として 4 回散布したところ、散布後 3~14 日の最大残留量は 0.13, 0.04 ppm であった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

⑨食用へちま

食用へちま (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、16.0%水溶剤の 2000 倍希釈液を計 3 回散布 (200L/10a, 360L/10a) したところ、散布後 1~7 日の最大残留量は 0.21, 0.16 ppm であった。

⑩トウガン

トウガン (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、16.0%水溶剤の 2000 倍希釈液を計 3 回散布 (267L/10a, 255L/10a) したところ、散布後 3~14 日の最大残留量は 0.14, 0.20 ppm であった。

⑪パパイヤ

パパイヤ (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、16.0%水溶剤の 2000 倍希釈液を計 3 回散布 (200L/10a) したところ、散布後 3~14 日の最大残留量は 0.21, 0.12 ppm であった。

#### ㊸ さとうきび

さとうきび(茎)を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を計1回土壌混和(植付時植溝処理)(6kg/10a)したところ、散布後259,302日の最大残留量は<0.005, <0.005 ppmであった。

#### ㊹ かぼちゃ

かぼちゃ(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を1回定植時植穴土壌混和処理(2g/株)及び16.0%水溶剤の2000倍溶液を計3回散布(200L/10a)したところ、散布後1~7日の最大残留量は0.06, 0.17 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

#### ㊺ みょうが

みょうが(花穂)を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2000倍希釈液を計3回散布(350L/10a)したところ、散布後1~14日の最大残留量は<0.05, <0.05 ppmであった。

なお、これらの試験結果の概要については、別紙1を参照。

注1) 最大残留量：当該農薬の申請の範囲内で最も多量に用い、かつ最終使用から収穫までの期間を最短とした場合の作物残留試験(いわゆる最大使用条件下の作物残留試験)を実施し、それぞれの試験から得られた残留量。

(参考：平成10年8月7日付「残留農薬基準設定における暴露評価の精密化に関する意見具申」)

注2) 経過日数13日の試験については、本来最大使用条件下として定められた14日の試験成績の誤差範囲内とみなし、当該試験成績を暴露評価の対象としている。

注3) 適用範囲内で実施されていない作物残留試験については、適用範囲内で実施されていない条件を斜体で示した。

注4) だいず(乾燥子実)の圃場Bにおける試験については、定められた適用回数を超えて試験がなされているが、処理直後の降雨による再処理の結果によるものであることから、暴露評価の対象としている。

注5) 夏みかんの果実については各試験区の果肉/果皮重量比を用いて算出している。

### 7. 乳汁への移行試験結果

乳牛2頭に対し、クロチアニジン14mg/頭/日を朝の搾乳直後に7日間連続して経口投与した。投与開始日、投与開始後1, 3及び7日、最終投与後1, 3及び5日に、搾乳機を用いて1日に2回搾乳し、同一日の試料を十分に攪拌し、分析試料としてクロチアニジン含量を測定したところ、いずれの試料においても、残留は検出されなかった。(検出限界0.01ppm)

## 8. 乳牛における残留試験

乳牛12頭に対して0、0.28、0.84、2.80ppmの飼料中濃度に相当する量のクロチアニジンを含むカプセルを28日間にわたり摂食させ、乳、筋肉、脂肪、肝臓及び腎臓に含まれるクロチアニジン含量を測定した。

また、乳については、投与開始後、0、1、4、7、14、21、28日目に搾乳したものを測定した(定量限界:0.01ppm)。筋肉、脂肪、肝臓及び腎臓については、投与開始後、28日目に採取したものを測定した(定量限界:0.02ppm)。結果については表1参照。

上記の結果に関連して、米国及びカナダでは、最大理論的飼料由来負荷(MTDB注)は0.28ppmと評価している。

表1. 乳及び各組織中の最大残留(ppm)

	0.28ppm 投与群	0.84ppm 投与群	2.80ppm 投与群
筋肉	-	<0.02	0.02
脂肪	-	<0.02	0.02
肝臓	-	<0.02	0.02
腎臓	-	<0.02	0.02
乳	<0.01	<0.01	0.01

注) 最大理論的飼料由来負荷(Maximum Theoretical Dietary Burden: MTDB): 飼料として用いられる全ての飼料品目に残留基準まで残留していると仮定した場合に、飼料の摂取によって畜産動物が暴露されうる最大量。飼料中残留濃度として表示される。

(参考: Residue Chemistry Test Guidelines OPPTS 860.1480 Meat/Milk/Poultry/Eggs).

## 9. ADIの評価

食品安全基本法(平成15年法律第48号)第24条第1項第1号の規定に基づき、平成20年1月11日付厚生労働省発食安第0111003号により食品安全委員会あて意見を求めたクロチアニジンに係る食品健康影響評価について、以下のとおり評価されている。

無毒性量: 9.7 mg/kg 体重/day

(動物種) ラット

(投与方法) 混餌投与

(試験の種類/期間) 慢性毒性/発がん性併合試験/2年間

安全係数: 100

ADI: 0.097 mg/kg 体重/day

## 10. 諸外国における状況

JMPR における毒性評価はなされておらず、国際基準も設定されていない。